

## 関西社会福祉学会ニュースレター

2015年度2号

山辺朗子教授をしのぶ

関西社会福祉学会  
会長 岡本民夫

突然の訃報に接し謹んで心からお悔やみ申し上げますとともに衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。思えばここ10年間あまり日本社会福祉学会理事として学会運営にご尽力頂くとともに関西社会福祉学会の運営の中核としてご活躍頂いたことに改めて深く御礼申し上げなければなりません。

一方、かねてからソーシャルワークの新しいモデルとして、ジェネラリスト・ソーシャルワークの体系的紹介と導入を果敢に取り組み、新たなソーシャルワークの局面を切り開くことに腐心された。それは単なる学説紹介に留まらずこの種の実践モデルを施設現場に具体的手法を開発して応用し、その確認と検証を行う実践的研究活動に精力的に取り組んでいた。そして、この理論実践モデルを新たな手法で施設以外の多様なフィールドにも応用して理論の確認と再現性を繰り返し証明していくことを夢見ていたであろうと考えられる。それだけにご本人もさぞや悔しい気持ちであったであろうと推測することには容易である。

今後は彼女の意図と研究のあり方を継承し、それを発展させていくことが残されたわれわれ同士と教え子たちに課せられた課題であり、使命であると考え。あらためて心からご冥福を申し上げる次第である。

山辺さんのグレイスに謝す

加藤 博史(龍谷大学短期大学部)

温かい人だった。どこまでもやわらかい優しい人だった。山辺さんが亡くなった数日後にNPO法人洛南福祉会「洛南共同作業所」の30周年の記念の会を開催した。1984年秋の開設である。宇治市長、議会議長臨席のもとで、理事長として私は挨拶に立った。その中で、府立洛南病院で実習していた山辺さんと藤原(久津間)正子さんが、31年前の開設当初1年半、無給で指導員として働いてくださった話をした。その後、院生だった木原活信青年もしばしば手伝いに顔を見せ、当時の記録には、岡本民夫先生や井岡勉先生の名も出てくる。

山辺さんはそんな自分の苦勞を自慢しない人だった。

周囲の人たちを自然に甘えさせる人だった。1998年から翌年にかけて、一緒に関わっていたある専門機関で、葛藤に巻き込まれ、私は結果的に彼女を傷つけてしまった。心のゆとりが無かった。謝りようがない。

ところが山辺さんは、その後も優しく接してくれた。あまつさえ、励ましてくれた。耐えるニュアンスのあるトランスの「寛容」ではなく、恩寵(グレイス)に抱かれている感謝からくる「寛容」を、山辺さんから感じている。

山辺さんの学問的到達点として、ジェネラリスト・ソーシャルワークの児童養護施設での展開、および「対論・社会福祉学5」がある。山辺さんは、「主体性」をめぐる権力関係に関する矛盾や混乱を、ソーシャルワーカーが捉えなおす重要性について指摘している。そして、「実践者が苦悩を経験しないならば、その苦悩はクライアントだけが引き受けることとなるだろう」(2012:80)と述べている。ソーシャルワーカーが自身のオルタナティブ・ストーリーを語りだす必要性を強調しているのである。しかし山辺さんは苦悩を売り物にはしなかった。エビデンスを大きな視野で捉えるべきだとする指摘は、ジェネラリストの面目躍如たるものがある。山辺さんへの借りは返せていない。山辺さんの遺した仕事をこれから読み込んでいきたい

## 2015年度 関西社会福祉学会

### 年次大会の開催にあたって

#### 開催校ご挨拶

大阪人間科学大学人間科学部  
社会福祉学科学科長 中川千恵美

2015年度関西社会福祉学会年次大会及び日本社会福祉学会学術フォーラムは、2016年3月6日(土)に大阪人間科学大学人間科学部社会福祉学科(大阪府摂津市)において開催いたします。

今大会の開催にあたり、開催校としての挨拶と案内を申し上げます。

大阪人間科学大学社会福祉学科は、2001年人間科学部社会福祉学科として、社会福祉士国家試験受験資格と精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を目指す養成校として、設置されました。その後、介護福祉士受験資格取得専攻を設ける等の学内編成を経て、2012年より社会福祉学科、医療福祉学科(介護福祉専攻・視能訓練専攻)、子ども福祉学科、健康心理学科、医療心理学科(臨床発達心理専攻・言語聴覚専攻)の5学科7専攻体制となり、福祉・介護、保育・幼児教育、心理、

医療・リハビリ分野での対人援助専門職養成を行ってきました。

社会福祉学科は、2015年に学科設立15周年を迎え、社会福祉士・精神保健福祉士受験資格及びスクールソーシャルワーカー資格の取得可能なカリキュラムとなり、成長を実感できる着実な資格取得と、福祉実践現場への福祉人材の輩出を大切にしています。

今年度の大会では、午前に関西社会福祉学会の年次大会自由研究発表と午後、第12回 日本社会福祉学会フォーラム「当事者主体の障害者地域生活支援を問う」の合同開催を実施する運びとなりました。社会福祉学会フォーラムでは、障害者の地域生活の“いま”と“これから”について、専門的支援としてのソーシャルワーク、差別解消や権利擁護、そして当事者運動や障害学の観点などをふまえながら、理論的かつ実践的な議論を展開されまです。会員の皆様におかれましては、ぜひともふるってご参加いただきたいと思ひます。

## 2015 年度 関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロック年次大会

### および総会案内

2015年度関西社会福祉学会・日本社会福祉学会関西地域ブロックの年次大会および総会を下記の要領で開催いたします。なお、午後のプログラムにつきましては、日本社会福祉学会第12回学会フォーラムとの共催になります。ふるってご参加ください。

日時：2016年3月6日（日）

場所：大阪人間科学大学（大阪府摂津市）

午前のプログラム（関西社会福祉学会・自由研究発表）

・受付（9：00～） 庄屋学舎 A号館1階

・自由研究発表（9：45～11：45）

同 A号館5階・6階

関西社会福祉学会年次総会（12:15～12:45）

同 A号館601教室

・開催校代表および岡本会長挨拶

1. 2015年度 事業報告（案）
2. 2015年度 決算報告（案）
3. 2016年度 事業計画（案）
4. 2016年度 予算（案）
5. 2016年度 役員体制（案）
6. その他

午後のプログラム（第12回 日本社会福祉学会フォーラムとの共催）※午後のプログラムの参加費1,000円

テーマ：「当事者主体の障害者地域生活支援を問う」  
プログラム

13:00～13:10 開会挨拶 岩田正美（学会会長・日本女子大学 名誉教授）

13:10～14:20 基調講演「当事者主体の地域生活を築くために～障害者権利条約批准後に何が求められるか～」石渡和実（東洋英和女学院大学 教授）

14:20～14:30 休憩

14:30～16:50 シンポジウム「障害者の地域生活支援の“いま”と“これから”」

14:30～15:40 シンポジストによる報告

玉木幸則（障害者総合相談支援センター にしのみや センター長）－当事者の立場から－

上田晴男（堺市権利擁護サポートセンター 所長）

－支援者の立場から－

小山聡子（日本女子大学 教授）

－研究者の立場から－

15:40～15:55 コメント

コメンテーター：石渡和実（東洋英和女学院大学 教授）

コーディネーター：加納恵子（関西大学 教授）

15:55～16:50 ディスカッション

16:50 閉会挨拶 山縣文治（大会担当理事・関西大学 教授）

17:00 終了

### 自由研究発表の募集

#### 1. 応募方法

発表を希望される方は、次の要領に従い、メールにて申込みと発表要旨の送付をしてください。締切日は〔2016年2月14日（日）〕です。

「関西社会福祉学会自由研究発表応募」とメールの件名（表題）をつけ、メール本文に①発表テーマ、②氏名、③所属、④連絡先（メールアドレス及び電話番号）、⑤会員番号を必ずお書きのうえ、発表要旨原稿のファイルを添付し、下記まで申し込んでください。（なお、お申し込み後1週間以内にメールにて受付確認の返信をいたします。連絡のない場合はお問い合わせください。）

※応募できるのは、日本社会福祉学会関西ブロック会員および関西社会福祉学会会員です。日本社会福祉学会関西ブロック会員の方は、日本社会福祉学会の会員番号をお書きください。関西社会福祉学会のみの会員であるB会員の方は、B会員とお書きください。

※メールでの送付が不可能な場合のみ、郵送にてお送りください（封筒に「自由研究発表要旨」と記載してください）。郵送の場合は発表要旨原稿のデータをCD-R、USBメモリのいずれかに保存し、プリントアウトしたものととも送付してください。郵送の場合締切日は「2016年2月7日（日）当日消印有効」となりますのでご注意ください。送付されたデータは、原則として返却いたしません。返却希望の場合は、返却先を記入した返信用封筒（切手貼付）を同封し、返却希望の旨を明記してください。

## 2. 自由研究発表応募・発表要旨送付先

○メール

tokoro@kansai-u.ac.jp（関西大学 所研究室）

○郵送の場合（メール送付ができない場合のみ）

〒590-8515 大阪府堺市堺区香ヶ丘 1-11-1

関西大学人間健康学部 所めぐみ研究室 宛

## 3. 発表について

発表 20分 質疑応答・コメント 10分です。

※プロジェクターを用いたパワーポイント等の使用はできません。

※発表場所と時間は後日メールにて発表者にお知らせいたします。

## 4. 自由研究発表要旨と資料について

発表要旨は、ワードで作成いただき、ワードファイルとPDF（レイアウトの確認のため）の2つをお送りください。PDFの作成が困難な場合、ワードファイルのみでも結構です。

＜自由研究発表要旨の様式＞

(1)用紙サイズ・枚数：1発表につきA4版2ページまで横書き

(2)余白：上下左右25mm（目安）

(3)フォント

- ・主題—12 ポイントゴシック 中央揃え
- ・副題—10.5 ポイントゴシック 中央揃え
- ・所属—9 ポイント明朝 氏名—10 ポイント明朝
- ・会員番号—9 ポイント明朝
- ・キーワード—9 ポイント明朝

※以上を用紙の上側に罫線で囲んで記載してください。

本文の項目（見出し）—10 ポイントゴシック

本文—9 ポイント明朝 1行48～50字程度

- ・ 本文の項目（見出し）は、[研究目的、研究の視点および方法、倫理的配慮、研究結果、考察]の5つにしてください。
- ・ 事例等の記述にあたっては、プライバシーの

保護、関係者の承諾等、学会の「研究倫理指針」に従ってください。人名、地名、職場名、学校名等の固有名詞は使用せず、A県、B市、Cさん、D施設などと表記し、実際のイニシャルは使用しないでください。

- ・ 調査を伴わない文献研究の場合でも、すべての要旨には、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」で確認して、配慮の内容（日本社会福祉学会の「研究倫理指針」に基づき配慮したこと）を記載してください。

## 5. 自由研究発表要旨と資料の配布について

提出いただいた自由研究発表要旨は事務局で印刷し、当日配布いたします。

なお、その他に当日配布資料がある場合は、各自印刷の上、30部を持参してください。

## 6. ニュースレター掲載用原稿の依頼について

本学会ニュースレターに大会報告を掲載いたします。自由研究発表をされた方には、大会後、ニュースレター掲載用の原稿（自由研究発表の概要）をご提出いただきます。詳細は、自由研究発表の申込者に別途お知らせいたします。（関西大学 山縣文治・所めぐみ）

## 第36回若手研究者・院生情報交換会 案内

テーマ：

「子ども家庭福祉の研究課題と『学校』の接点」

2000年代に入り、スクールソーシャルワーカーの実践が広がるとともに、スクールソーシャルワークに関する研究が増えました。

しかし、子ども家庭福祉の視点から「学校という場」の意味にせまる研究は多くはありません。そこで、子ども家庭福祉の研究課題と子どもたちが多くの時間を過ごす「学校」との接点はどのように立ち現れるのか、報告者の研究を手掛かりに議論したいと思います。

日時：2016年2月6日（土）14：00～17：00

（終了後、懇親会の開催を予定しています）

報告者：①金澤ますみ（桃山学院大学）

企画主旨説明：学校という場の営みを子ども家庭福祉の研究課題として考える

—スクールソーシャルワークの視点から—

②山中徹二（大阪人間科学大学）

ソーシャルワークによる軽度知的障害児・者のひきこもり予防支援のあり方

—子ども・若者支援者の聞き取り調査から「学校」を考える—

③長瀬正子（佛教大学）

全国の児童養護施設における『子どもの権利ノート』の現在

—改訂および改定の動向に焦点をあてて—

コメンテーター：松端克文（桃山学院大学）

場 所：桃山学院大学梅田サテライト

大阪府大阪市北区梅田1丁目 梅田スクエアビルディング8階

<http://www.andrew.ac.jp/work/umeda.html>

参加費：無料

参加申し込み：masumi@andrew.ac.jp（金澤ますみ）宛に、①お名前、②ご所属、③懇親会参加の有無をご記入のうえ、2016年1月29日（金）までにお申し込みください。

件名に「36 情報交換会」と明記ください。

（龍谷大学短期大学部 阪口春彦）

## 2016年度『関西社会福祉研究』（第3号）

### 投稿原稿を求めます

『関西社会福祉研究』（日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会の機関誌）の投稿原稿を募集します。原稿の種類は、論文、その他（実践報告、調査報告等）となっています。

締め切りは2016年8月31日（水）です。すべての原稿の査読を行うために、採用されると査読付きの論文等となります。2016年度内に発行します。ちなみに2015年度は7本の投稿がありました。

会員であればどなたでも投稿できますが、とりわけ関西を感じる投稿を期待しています。

投稿について関心のある方は、『関西社会福祉研究』に掲載されている投稿・執筆規定をご確認ください。ご不明の点があれば、下記のメールアドレスにお問い合わせください。

kansaifukushi@tune.ocn.ne.jp  
（小野 達也）

### B会員会費納入のお願い

日本社会福祉学会の関西地域ブロックの方は自動的に関西社会福祉学会の会員（A会員）となり、会費は日本社会福祉学会からの還元金を当てることとなり

ます。

一方、日本社会福祉学会の関西地域ブロック会員でない方、日本社会福祉学会の会員ではないが関西社会福祉学会の会員である方（B会員）の年会費は2,000円です。従って、B会員の方で、本年度（2015年度）会費2,000円を未納の方は、納入していただくようお願いいたします。会費納入が3年間ない方については、B会員を退会したものとして扱わせていただきます。

なお、B会員の方で、日本社会福祉学会関西地域ブロックの会員になられた方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

#### B会員会費納入方法の変更について

B会員の方には別途、会費納入の依頼文書をお送りしております。指定の銀行口座に年会費（2,000円）を納入していただきますようお願いいたします。その際には、ご利用の個人名義口座から学会名義口座への振り込みをしていただくと、振込者の氏名が学会通帳に記帳され、こちらの確認作業が容易になり助かります。なお、振込手数料につきましては、各自でご負担いただきますようお願い申し上げます。

金融機関 三菱東京UFJ銀行

支店 大阪営業部

口座名義 関西社会福祉学会

口座番号 4530873

（野村恭代）

#### 機関紙担当から

本年度第二号を発行します。

今年度からニュースレターが紙媒体での発行でなく、電子媒体となりました。ご了解ください。

そして、年二回のニュースレターに間に合わない情報も、別に随時メーリングリストや日本社会福祉学会サイト上の関西ブロックのページでも合わせて発信していきます。

合わせてご利用ください。

（小山 隆）

#### 関西社会福祉学会ニュースレター

発行日 2016年1月19日

発行者 会長 岡本民夫

関西社会福祉学会

事務局 桃山学院大学

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

桃山学院大学社会福祉実習指導室（川井） 気付

電話：0725-54-3131（内線2636）

FAX：0725-54-3289